

広報川越は1500号を迎えました

広報室 ☎224-5495 ☎225-2171

昭和26年4月20日、「川越市政だより」として始まった本市の広報。今月号で節目の1500号を迎えました。今回は、広報川越72年のあゆみを振り返ります。皆さんの思い出に残る広報はありますか？

広報川越のあゆみ

●昭和26年

「川越市政だより」を発行(①)

●昭和30年

周辺9か村合併特集(②)

●昭和41年

「広報かわごえ」に名称変更

●昭和42年

「川越」に題字を変更

●昭和43年

月2回発行になる

●昭和44年

「広報川越」に題字を変更

A4サイズ冊子版に

●昭和45年

初のカラー写真掲載(③)

●昭和47年

市制施行50周年記念川越まつり(④)

●昭和54年

テレビ広報「わが街川越」
放映開始(⑤)

●昭和55年

500号記念(⑥)



② 合併特集号

川越市政だより

(昭和30年4月1日発行)

「大川越市ここに誕生」と号外を発行。

この時期は大きなニュースがあるとその都度号外を発行して市民に情報を周知していました。



④ 第321号

広報川越

(昭和47年10月25日発行)

市制施行50周年を記念して盛大に行われた川越まつりの様子を表紙で取り上げました。



⑤ 第487号

広報川越

(昭和54年9月25日発行)

市政ニュースを伝えるテレビ番組「わが街川越」が開局したばかりのテレビ埼玉で始まりました。



③ 第254号

広報川越

(昭和45年1月10日発行)

この年以降、特別なことがある際にカラー写真を用いるようになりました。



⑥ 第500号

広報川越

(昭和55年4月10日発行)

節目となる500号。「広報紙のあゆみ」や広報モニターへのインタビューを掲載しました。

ここで紹介したのは
ごくごく一部です。
このほかの号もぜひ、
チェックしてみてください
いね!



広報川越のバックナンバーは ホームページで確認できます



⑦ 第1000号
広報川越 (平成13年2月10日発行)

節目となる1000号。創刊から50年目の年でもあり、
広報の歴史を振り返る特集記事を掲載しました。



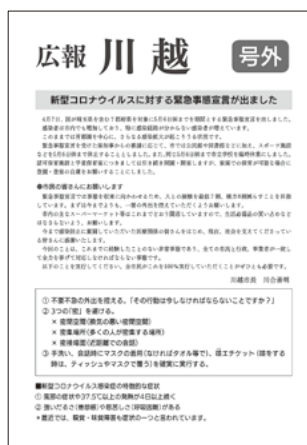
⑩ 特別号
広報川越
(平成28年12月10日発行)

全ページフルカラーの特別号を発行して世界的ニュースをお知らせしました。



⑧ 第1052号
広報川越
(平成15年4月10日発行)

中核市としての新たなスタート。予算額も過去最高額(当時)になりました。



⑪ 号外
広報川越
(令和2年4月13日発行)

新型コロナウイルス感染症に対する緊急事態宣言を受け、号外を発行して感染予防を呼びかけました。



⑫ 第1491号
広報川越
(令和4年12月1日発行)

市制施行100周年記念号。さまざまな記念事業や記念誌を紹介しました。

●平成13年
1000号記念(⑦)

●平成15年
川越市が中核市になる(⑧)

●平成18年
天皇・皇后(現上皇・上皇后)
両陛下下行幸啓(⑨)

●平成28年
川越氷川祭の山車行事がユネスコ
無形文化遺産に登録(⑩)

●令和2年
新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言
の号外を発行(⑪)
月1回発行になる

●令和4年
市制施行100周年記念(⑫)

●令和5年
全ページ横書き化に伴い、左綴りに
「広報かわごえ」に題字を変更



⑨ 第1148号
広報川越
(平成19年4月10日発行)

本市にいらっしゃった天皇・皇后(現上皇・上皇后)両陛下とスウェーデン国王・王妃両陛下の様子をお伝えしました(詳細は1149号で紹介)。

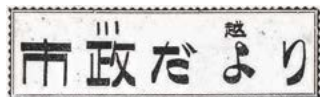


To Be Continued...

題字のうつりかわり



① 1号～13号
(昭和26年4月20日～同27年3月25日)
創刊当時の題字は縦型、右上部に掲載。



② 15号～34号
(昭和27年5月25日～同29年1月)
題字が横書きになり、中央上部に移動。



③ 35号～47号
(昭和29年3月～同30年5月)
明朝体の活字になる。



④ 51号～78号
(昭和30年9月～同32年9月10日)
背景に雁のイラストが入る。



⑤ 79号～109号
(昭和32年10月10日～同34年12月10日)
背景に矢印が入る。



⑥ 110号～186号
(昭和34年1月10日～同41年3月10日)
「川越」も含め一行に。



⑦ 187号～198号
(昭和41年4月10日～同42年3月10日)
より市民に親しまれる広報を目指して題字(名称)を変更

NEW /

広報 かわごえ

～ KAWAGOE ～

⑮ 1500号～(令和5年9月1日～)

54年ぶりに題字をひらがなに変更。デザイン考案は県立川越工業高校3年生の安井莉乃さん(詳しくは裏表紙)。

題字のデザインコンセプトが「新時代を象徴する洗練かつシンプルな若者(広報戦略がターゲットとする子育て世代)の目を引くデザイン」とあったため、シンプルでスタイリッシュかつ、丸みのあるかわいらしいデザインを目指しました。黒字からカラフルな色みを出すことで子育て世代の目を引くよう制作しました。黄色と紫で川越のシンボルでもあるさつまいもをイメージして、波のような曲線は、川越の発展にもつながった「新河岸川」の川の流れを表しています。シンプルにしながらも川越らしさを出すことで表紙の写真よりも目立つことがないバランスのよい題字になりました。

広報川越の題字は時代に合わせて変わってきました。そんな題字の移り変わりをご紹介します。
* 市政だよりの欠落号は除いています。



⑧ 199号～235号
(昭和42年4月10日～同44年3月25日)
シンプルに「川越」のみ。市長(当時)の直筆。



⑨ 236号～385号
(昭和44年4月10日～同50年6月25日)
「広報」が復活。「川越」部分は⑧と同じく市長(当時)の直筆。



⑩ 386号～811号
(昭和50年7月10日～平成5年3月25日)
「川越」部分は⑧と同じく市長(当時)の直筆。



⑪ 812号～999号
(平成5年4月10日～同13年1月25日)
手書き文字ではなく、明朝体の写植文字に変更。



⑫ 1000号～1051号
(平成13年2月10日～同15年3月25日)
「広報」部分を英語に変更。



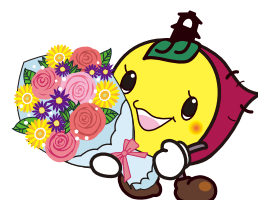
⑬ 1052号～1459号
(平成15年4月10日～令和2年4月13日(号外))
「広報」部分が漢字に戻る。



⑭ 1460号～1499号
(令和2年5月1日～同5年8月1日)
より読みやすくするためゴシック体に変更。

広報川越はこれからも

現在のまま月1回の発行であれば広報川越の2000号は42年後。そのころは完全に電子版となっているのか、はたまた紙媒体のままなのかはわかりませんが、今後も市民の皆さんと行政の橋渡し役として広報川越の発行を続けていきます。



広報川越を支える方々

多くの方に読んでほしい広報川越を支える、「縁の下の力持ち」たちをご紹介します。



イラスト

イラストレーター・中里治夫さん

広報川越に載っている、ほんわかとした心温まるイラストの数々。行政情報のため、どうしても文字が多くなりがちな広報川越の清涼剤であり、難しいニュース記事を噛み砕いてくれる解説役でもあります。

そのイラストを30年以上も描き続けてくれているのが、市内在住のイラストレーター・中里治夫さんです。

「記事の内容を、皆さんに分かりやすく、親しみをもっていただけるよう心がけて描いております」と語る中里さん。これからも広報川越を彩り続けます。



音訊



活字版の広報川越を読むことが困難な方などに、広報川越の内容を音声でお届けする「声の広報川越」。昭和42年当初はオープンリールテープ、昭和54年10月からはカセットテープに録音していました。平成24年11月10日号からはCDに変更し、平成31年4月10日号からはデジター版(デジタル録音図書国際標準規格)CDの作成も始めました。

録音は、6人の朗読ボランティアの方々3人ずつのグループとなり、それぞれ隔月で担当しています。打ち合わせの際に読み方や発音などを入念にチェックし、それぞれの自宅で何度も練習。並々ならぬ情熱を注いで録音した音声CDを毎月、利用者にお届けしています。



声の広報川越
ホームページ

点字記

広報川越の記事を抜粋し、点字にした「広報川越点字版」。視覚に障害のある方のうち、希望する方に昭和47年から送付しています。

製作者は、福祉施設で働いている方々。



音声化された原稿を聞きながらパソコンでプラスチック製の原版を作り、その原版で挟んだ点字用紙をプレス機に通して原版を剥がせば1枚が完成です。「点字をつぶさないよう気を付けて作業しています」と話してくれました。



配布

創刊時から市内全戸への配布を続けている広報川越。以前は自治会の方と広報協力員に配布をお願いしていましたが、現在はシルバー人材センターと市内の福祉施設に業務を委託しています。

毎月1日発行の広報川越を市内約16万5千世帯へ前月末日までに配布します。

市民の皆さんに情報をお届けするため、暑い夏や寒い冬にも負けずに一軒一軒配布しています。

